平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)実績報告書(研究実績報告書)

1.	機関番号	1 4 6 0 3	2. 研究機関名	奈良先端科学技術大学院大学
3.	研究種目名	基盤研究(A)(一般)	4. 研究期間	平成24年度~平成28年度
5.	課題番号	2 4 2 4 0 0 3 2		
6.	研究課題名	外国語ニュース・講演の音声同時通訳方式	に関する研究	

7. 研究代表者

研 究 者 番 号	研究代表者名	所属部局名	職名
	ナカムラ サトシ	情報科学研究科	教授

8. 研究分担者

	矽	Η :	<u>究</u>	者	番	号		研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
1	0	2	1	1	5	7	5	マツモト ユウジ 松本 裕治	情報科学研究科	教授
3	0	6	2	5	0	8	3	サクリアニ サクティ サクリアニ サクティ	情報科学研究科	助教
7	0	6	3	3	4	2	8	ニュービッグ グラム Neubig Graha m	情報科学研究科	助教
9	0	7	8	4	3	3	0	タカミチ シンノスケ 高道 慎之介	東京大学・大学院情報理工学系研究科	特任助教

9. 研究実績の概要

同時通訳基本方式研究:平成28年度は、音声認識にボトムアップパーザを適用し、次に来る構文要素を機械学習により予測し、それにより訳出を行うかどうかを判定する方式の改良を行った。また、注意型ニューラル翻訳の研究を進めた。コミュニケーション評価:音声認識における置換、挿入、脱落誤りに対する発話者の反応測定を行ない、認知負荷の測定、改良を行った。同時通訳コーパス構築、プロトタイプ構築:平成28年度は、講義5コマ分の日英翻訳を行った。

(1) 音声翻訳	(2)	(3)	(4)	
(5)	(6)	(7)	(8)	
見在までの進捗状況				
区分)				
里由)				
=ロッ 年度が最終年度である7	ため、記入しない。			
○後の研究の推進方質				
今後の研究の推進方領	策 ————————————————————————————————————			

13.研究発表(平成28年度の研究成果)

「雑誌論文】 計(4)件/うち査読付論文 計(4)件/うち国際共著論文 計(3)件/うちオープンアクセス 計(4)件

著 者 名	論 文 標 題							
Takuya Hiraoka, Kallirroi Georgila, Elnaz Nouri, David Traum, Satoshi Nakamura	Reinfor	cement Lear	ning of Multi-Party	Trading Dialog	Policies			
雑 誌 名		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著		
人工知能学会論文誌		有	31	2 0 1 1 6	pp . 1 - 14	該当する		
掲載論文のDOI	(デジ?	タルオブジ:	ェクト識別子)					
10.1527/tjsai.B-FC1								
	オープ	ンアクセス						
オープンアクセスとしている(また、その予定である)								

著 者 名			論	文 標 題	į	
Quoc Truong Do, Tomoki Toda, Graham Neubig, Sakriani Sakti and F Satoshi Nakamura	Preserv	ing Word-lev	vel Emphasis in Spe	ech-to-speech T	ranslation	
		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
IEEE Transactions on Audio, Speech and Language Processin	ng	有	vol. 25 no.3	2 0 1 1 6	pp.544-556	該当する
掲載論文のDOI((デジク	ヲルオブジ゠	ェクト識別子)			
10.1109/TASLP.2016.2643280						
	オープ	ンアクセス				
オープンアクセスとしている(また、その予定である)						

著者名			論	文	標	題	İ	
Takuya Hiraoka, Graham Neubig, Sakriani Sakti, Tomoki Toda and L Satoshi Nakamura	_earning	cooperativ		-				
雑 誌 名	j	査読の有無	巻	多	ききゅうさい そうしゅう そうしゅう そうしゅう そうしゅう そうしゅう そうしゅう そうしゅう そうしゅう かいしゅう しゅう かいしゅう かいしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう		最初と最後の頁	国際共著
Speech Communication		有	vol.84	2	 0 1 	 	pp.83-96	該当する
掲載論文のDOI((デジタ	ルオブジェ	ェクト識別子)	•				
10.1016/j.specom.2016.09.002								
7	オープン	/アクセス						
オープンアクセスとしている(また、その予定である)								

著 者 名					論	文	標	票	題		
三浦明波,Graham Neubig, Sakriani Sakti, 戸田智基,中村哲	中間言語	吾情報を記憶	するピオ	 できる	~翻訳手	法					
			•								
雑 誌 名		査読の有無		巻			発行	亍年		最初と最後の頁	国際共著
ウ 材 ⇒氧加 Ⅲ		有	امير	22	20 F		_	i , i		nn 400 F20	
自然言語処理		泪	VOI	. 23	no.5	2	U	1	ь	pp.499-528	_
										<u> </u>	
掲載論文のDOI	(デジ:	タルオブジ:	ェクト記	哉別·	子)						
10.5715/jnlp.23.499											
	オープ	ンアクセス									
オープンアクセスとしている(また、その予定である)											

「学会発表」 計(18)件/うち招待講演 計(2)件/うち国際学会 計(9)件

【子宏光衣】 計(18)件/つり指付補供 計(2)件/つ)5国際子云 司(9)	1+			
発 表 者 名		発	表 標	題	
Do Quoc Truong,戸田 智基,Sakriani Sakti,中村 哲	Combination of State C Word-level Emphasis	lustering and	Adaptive T	raining fo	r modeling continuous
学 会 等 名	発表年月日		発	表場	所
日本音響学会春季研究発表会	2017年03月15日 ~ 2017年03月17日	明治大学(神	神奈川県・川	崎市)	

発 表 者 名		発	表標	票 題		
Michael Heck,中村 哲,Sakriani Sakti	Learning Feature Trans Representation Learnin		thout Supe	ervision t	o Support D	PGMM Based
学 会 等 名	発表年月日			発表力	湯 所	
日本音響学会春季研究発表会	2017年03月15日~ 2017年03月17日	明治大学(花	伸奈川県・	川崎市)		

発 表 者 名		発 表	標 題	
森下 睦,小田 悠介,Graham Neubig,吉野 幸一郎,須藤 克仁,中村 哲	ニューラル機械翻訳にお	けるミニバッチ構成法	まの違いによる影響の調	查
学 会 等 名	発表年月日		発表場 所	
言語処理学会第23回年次大会	2017年03月13日 ~ 2017年03月17日	筑波大学(茨城県	・つくば市)	

発 表 者 名		発 表 標 題
中村 哲	音声研究と自然言語研究	の融合に向けて-音声翻訳研究の過去と未来
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
第18回音声言語シンポジウム(招待講演)	2016年12月20日 ~ 2016年12月21日	NTT武蔵野研究開発センタ(東京都・武蔵野市)
発 表 者 名		

発 表 者 名		発 表 標	題
ク チュオン ド, サクリアニ サクティ, グラム ニュービック, 中村 哲	ハードアテンション用い	た注意型ニューラルネットワ	ークによる音声翻訳
学 会 等 名	発表年月日	発	表場所
第18回音声言語シンポジウム	2016年12月20日 ~ 2016年12月21日	NTT武蔵野研究開発センタ	(東京都・武蔵野市)

発表者名 アンドロス チャンドラ, サクリアーニ サクティ, ミルナ アドリアーニ, 中村哲	コクレオグラムとスペク	発 表 標 題 7トログラムを用いた深層学習音声認識
学 会 等 名 第18回音声言語シンポジウム	発表年月日 2016年12月20日 ~ 2016年12月21日	発表場所 NTT武蔵野研究開発センタ(東京都・武蔵野市)

発 表 者 名		発	表標	題
帖佐克己、小田悠介、Sakriani Sakti、吉野幸一郎、中村 哲	同時音声翻訳のための構	文情報を用いた	文分割に基づ	く機械翻訳
学 会 等 名	発表年月日		発	表場所
第3回自然言語処理シンポジウム	2016年12月21日 ~ 2016年12月22日	NTT武蔵野研究	?開発センタ	(東京都・武蔵野市)

発 表 者 名		発 表	標 題	
Michael Heck, Sakriani Sakti, Satoshi Nakamura	ITERATIVE TRAINING OF SCENARIO	A DPGMM-HMM ACOUSTIC	UNIT RECOGNI	ZER IN A ZERO RESOURCE
学 会 等 名	発表年月日			, 所
SLT 2016 (国際学会)	2016年12月13日 ~ 2016年12月16日	サンディエゴ(米国)	

発 表 者 名		発 表 標 題	
Sakriani Sakti, Seiji Kawanishi, Graham Neubig, Koichiro Yoshino, Satoshi Nakamura		IRES AND SOUND-DEPENDENT I-VECTORS FOR SIMULTANEOUS I AND ENVIRONMENTAL SOUNDS	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所	
SLT 2016(国際学会)	2016年12月13日 ~ 2016年12月16日	サンディエゴ(米国)	

発 表 者 名		発 君	表標	題	
Satoshi Tsujioka, Sakriani Sakti, Koichiro Yoshino, Graham Neubig, Satoshi Nakamura	Unsupervised Joint Est Acoustic Model Adaptat				systems and
学 会 等 名	発表年月日		発	表場所	
Interspeech 2016 (国際学会)	2016年09月08日 ~ 2016年09月12日	サンフランシス	スコ(米国)		

発 表 者 名		発	表	標	題		
Michael Heck, Sakriani Sakti, Satoshi Nakamura	Supervised Learning of DPGMM Clustering	Acoustic Mod	dels in a	a Zero	Resource	Setting to	Improve
学 会 等 名	発表年月日			発	表場	所	
Interspeech 2016 (国際学会)	2016年09月08日 ~ 2016年09月12日	サンフラン	シスコ(米国)			

発 表 者 名		発		表	標	題			
Quoc Truong Do, Sakriani Sakti, Graham Neubig, Satoshi Nakamura	Transferring Emphasis Models	in Speech	Trans	slation	Using	Hard-A	ttentional	Neural	Network
学 会 等 名	発表年月日				発	表場	所		
	2016年09月08日 ~ 2016年09月12日	サンフラ	ンシ	スコ(:	米国)				
双 圭 耂 夕	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	7 %		<u> </u>	大 西	晤			

発 表 者 名		発 表	標 題	
Quoc Truong Do, Tomoki Toda, Graham Neubig, Sakriani Sakti, Satoshi Nakamura	A Hybrid System for Co Clustering and Adaptiv		Emphasis Modeling Ba	ased on HMM State
学 会 等 名	発表年月日		発表場 所	
Interspeech 2016(国際学会)	2016年09月08日 ~ 2016年09月12日	サンフランシスコ((米国)	

発 表 者 名		発 表 標 題
三浦 明波, Graham Neubig, 中村 哲	木構造を中間表現とする	5 ビボット翻訳手法
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
第227回自然言語処理研究発表会	2016年07月29日~ 2016年07月30日	岡山県立大学(岡山県・総社市)

発 表 者 名		発	ŧ	表	標	題			
Satoshi Nakamura	Bridging different Lan Translation Research	guages, C	Countr	ies, a	and Cul	tures b	y Speech	to Speech	
学 会 等 名	発表年月日				発	表場	所		
InterACT 2015(招待講演)(国際学会)	2016年07月14日~ 2016年07月16日	バーデン	ノバー	デン	(ドイ)	ツ)			

7V ± 4V 47	1		₹ ±	+# 85	
発表者名 Akiva Miura, Graham Neubig, Michael Paul, Satoshi Nakamura	Colooting	Syntaatia	発 表 Non-redundant Segmer	標題 to in Active Le	orning for Machine
AKIVA MIUTA, GIANAM NEUDIG, MICHAET PAUT, SATOSHI NAKAMUTA	Translation		non-redundant Segmer	nts in active Le	arning for machine
学会等名	ヹ ≠ ℓ	年月日		Z¥ ≠ ↓B	55
	2016年06月		サンディテディル	発表場	P/I
NAACL HLT 2016 (国際学会)	2016年06月	17日	サンディエゴ(米	国 <i>)</i>	
7° ± ± 47			- ₹ ±	+# 85	
発表者名 Michael Heck, Sakriani Sakti, Satoshi Nakamura			発 表	標題	DPGMM Clustering in the
		rce Scenari		o capporting	
学 会 等 名	発表:	年月日		発 表 場	所
SLTU 2016 (国際学会)	2016年05月 2016年05月	109日~	ジョグジャカルタ		
TV + + 4	<u> </u>		7% +		
発表者名 森下睦,小田悠介,Graham Neubig,吉野幸一郎,中村哲	様々な分野	における対詞	発 表 ペイスを用いた構造	標 題 文解析器の自己学	習効果の検証
学 会 等 名	発表症	年月日		発 表 場	
情報処理学会 第226回自然言語処理研究会	2016年05月 2016年05月		東京工業大学(東	京都・目黒区)	
〔図書〕 計(0)件					
著者名				出 版 社	
書名				発行年	総ページ数

14.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(1)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別
構文評価装置、翻訳装置、構文評価方法及び構文評価 プログラム	小田 悠介、 Graham Neubig、中村 哲 他	미교	特許、 PCT/JP2016/055186	2016年09月09日	国内

〔取得〕 計(1)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
テキストデータ分割装置、テキストデータ分割方法、	藤田 朋希、 Graham Neubig、中村哲 他	同左		2017年02月17日	
			特許、P150011337	出願年月日	国内
				2013年05月07日	

15.科研費を使用して開催した国際研究集会

[国際研究集会] 計(0)件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

16.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

(1)国際共同研究:国際共同研究である

共同研究相手国	相手方研究機関				
インドネシア	インドネシア大学	バンドン工科大学	-	-	
ベトナム	ベトナム国家大学ハ <i>ノ</i> イ校工科 大学	-	-	-	
-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	
-					